

2009年 1月 26日

“いのち”を思う減災

大阪ガス エネルキ-・文化研究所

客員研究員 弘本由香里

あの日から15回目の1月17日
を目前にした一夜のこと。大阪・
天王寺区下寺町の大蓮寺本堂で、
数々の被災地を巡ってきた災害救
援NPOの理事長・渥美公秀さんが
語った。地域のなかで、誰でもで
きること、何気ない日々の暮らし
そのものが備えになっていること。
それがとりもなおさず「減災」の
力、地域の生命力であると。

日常の中で、いつ来るとも知れ
ぬ驚異に備えるというのは簡単な
ことではない。だからこそ、私た
ち人間は、古来暮らしの折節に年
中行事を織り込み、物語を息づか
せながら、時を越え世代を越えて
“いのち”のつながりに思いを馳
せる感性を育んできた。

こうした生活文化を支える拠
点として営まれてきた、お寺や神
社や文化施設は、間違いなく地域
の減災を創造していくために欠く
ことのできない大切な場所のひと
つであるだろう。

来る2月の1カ月間、大阪・上
町台地界隈の寺社（應典院、高津
宮）と文化施設（萌、練）を巡る
「減災キャラバン on 上町台地」
が開催される。全国各地の減災の
智慧を集めた『いのちをまもる智

恵』の制作者たち（NPO法人レスキューストックヤード、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターほか）と、上町台地関係者の願いが共鳴して生まれた、新たな減災文化創造の一步である。